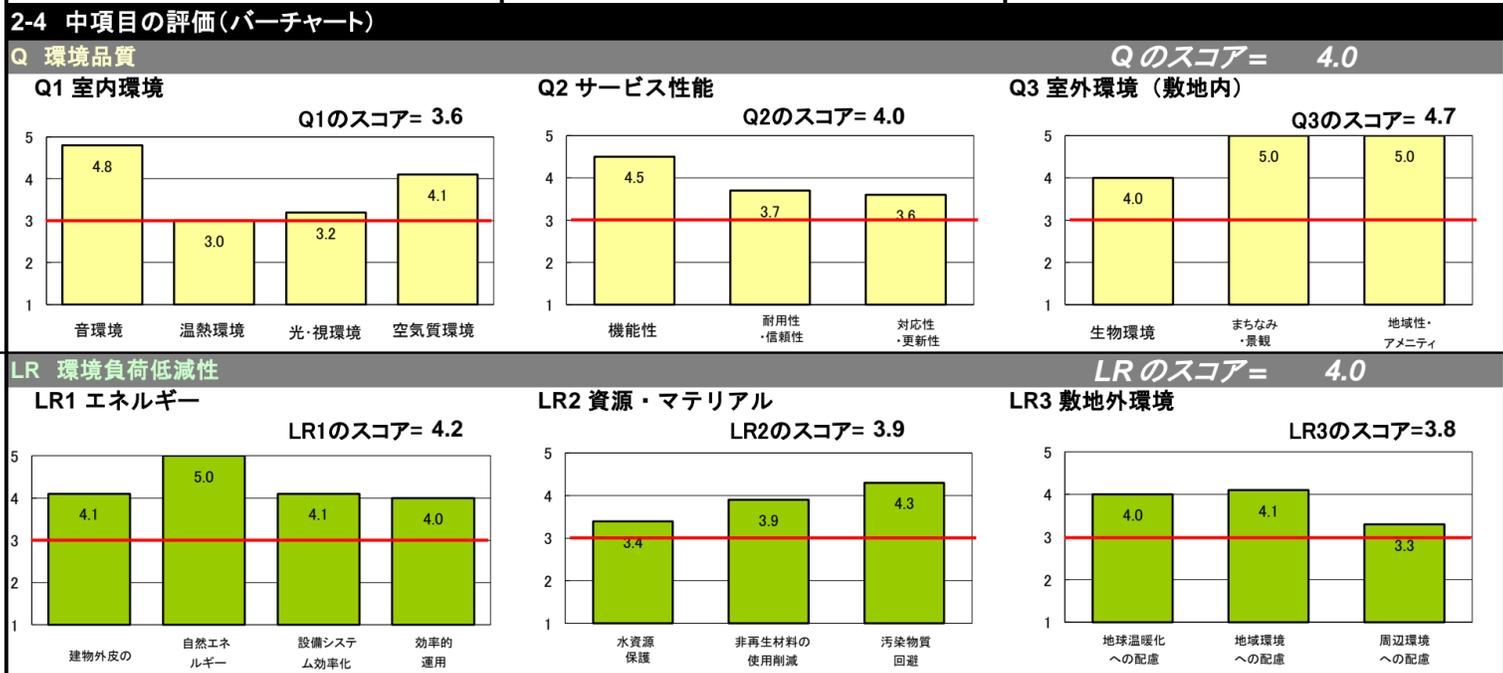
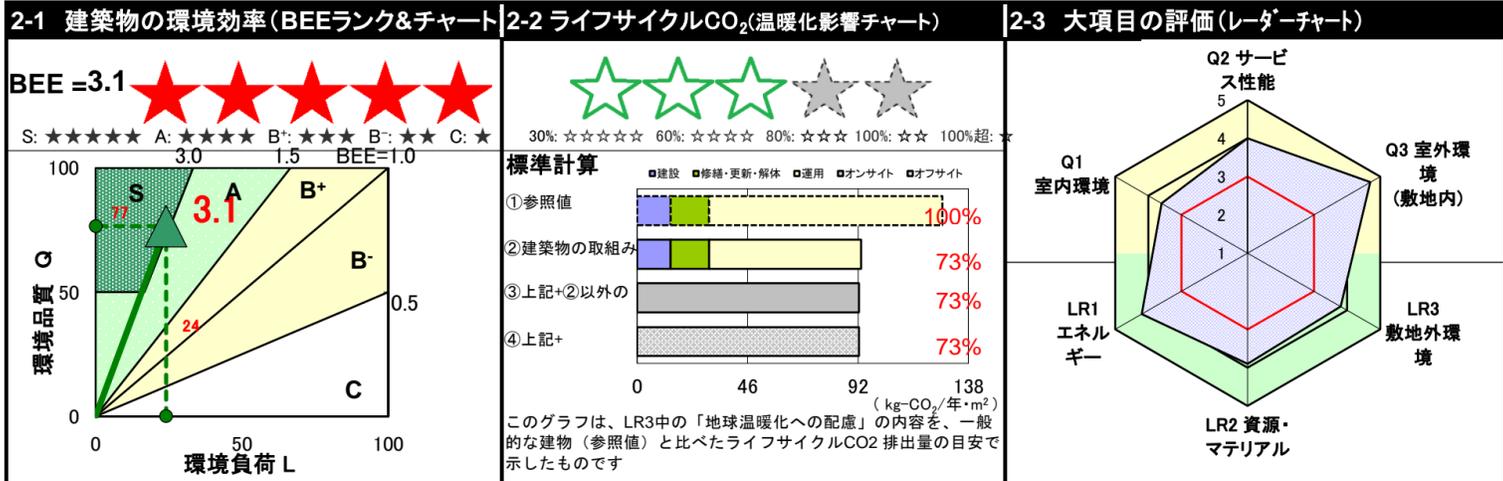


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	日本特殊陶業株式会社(仮称)小牧事務棟	階数	地上5階
建設地	愛知県小牧市大字岩崎字西市2808-7他4筆	構造	S造
用途地域	工業地域、法22条区域	平均居住人員	758人
気候区分	6地域	年間使用時間	3,300時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年7月 予定	評価の実施日	2020年5月15日
敷地面積	4,943 m <sup>2</sup>	作成者	大林組 陳 遜
建築面積	3,071 m <sup>2</sup>	確認日	2020年5月21日
延床面積	11,979 m <sup>2</sup>	確認者	大林組 陳 遜



### 3 重点項目

<b>①地球温暖化への配慮</b> <p><b>4.0</b></p>	<b>③敷地内の緑化</b> <p><b>4.0</b></p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>110.9 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>1.6 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	110.9 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	1.6 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	110.9 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	1.6 %				
<b>②資源の有効活用</b> <p><b>3.7</b></p>	<b>④地域材の活用</b> <p><b>4.0</b></p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;                      愛知県の産業として確立されている「セラミック」を使用</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;                      タブノキ(小牧市の木)                      ツツジ(小牧市の花)</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$$

$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部							住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体						
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体							
		Q 建築物の環境品質														4.0					
Q1 室内環境														3.6							
1 音環境														4.8							
1.1 室内騒音レベル														3.0	5.0	0.40	-	-	-	-	-
1.2 遮音														0.4	5.0	0.40	-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能														-	5.0	0.60	-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能														-	5.0	0.40	-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														-	-	-	-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														-	-	-	-	-	-	-	-
1.3 吸音														-	4.0	0.20	-	-	-	-	-
2 温熱環境														0.3	3.0	0.35	-	-	-	-	-
2.1 室温制御														0.5	4.2	0.50	-	-	-	-	-
1 室温														3.0	3.0	0.38	-	-	-	-	-
2 外皮性能														3.0	5.0	0.25	-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性														3.0	5.0	0.38	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御														3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-
2.3 空調方式														3.0	1.0	0.30	-	-	-	-	-
3 光・視環境														0.2	3.2	0.25	-	-	-	-	-
3.1 昼光利用														0.3	2.4	0.30	-	-	-	-	-
1 昼光率														3.0	2.0	0.60	-	-	-	-	-
2 方位別開口														-	-	-	-	-	-	-	-
3 昼光利用設備														3.0	3.0	0.40	-	-	-	-	-
3.2 グレア対策														0.3	4.0	0.30	-	-	-	-	-
1 昼光制御														5.0	4.0	1.00	-	-	-	-	-
3.3 照度														3.0	4.0	0.15	-	-	-	-	-
3.4 照明制御														3.0	3.0	0.25	-	-	-	-	-
4 空気環境														0.2	4.1	0.25	-	-	-	-	-
4.1 発生源対策														0.5	4.0	0.50	-	-	-	-	-
1 化学汚染物質														3.0	4.0	1.00	-	-	-	-	-
4.2 換気														0.3	4.0	0.30	-	-	-	-	-
1 換気量														3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-
2 自然換気性能														3.0	5.0	0.33	-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮														3.0	4.0	0.33	-	-	-	-	-
4.3 運用管理														0.2	4.5	0.20	-	-	-	-	-
1 CO <sub>2</sub> の監視														3.0	4.0	0.50	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御														3.0	5.0	0.50	-	-	-	-	-
Q2 サービス性能														-	-	0.30	-	-	-	-	-
1 機能性														0.4	4.5	0.40	-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ														0.4	4.0	0.40	-	-	-	-	-
1 広さ・収納性														3.0	4.0	0.33	-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応														3.0	5.0	0.33	-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画														3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性														0.3	4.6	0.30	-	-	-	-	-
1 広さ感・景観(天井高)														3.0	4.0	0.33	-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース														3.0	5.0	0.33	-	-	-	-	-
3 内装計画														3.0	5.0	0.33	-	-	-	-	-
1.3 維持管理														0.3	5.0	0.30	-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計														3.0	5.0	0.50	-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保														-	5.0	0.50	-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性														0.3	3.7	0.31	-	-	-	-	-
2.1 耐震・免震・制震・制振														0.4	3.8	0.48	-	-	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														3.0	4.0	0.80	-	-	-	-	-
2 免震・制震・制振性能														3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数														0.3	4.0	0.33	-	-	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数														-	5.0	0.23	-	-	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														-	3.0	0.23	-	-	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														-	5.0	0.09	-	-	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														-	5.0	0.08	-	-	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														-	5.0	0.15	-	-	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔														-	3.0	0.23	-	-	-	-	-
2.4 信頼性														0.1	3.0	0.19	-	-	-	-	-
1 空調・換気設備														3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-
2 給排水・衛生設備														3.0	4.0	0.20	-	-	-	-	-
3 電気設備														3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-
4 機械・配管支持方法														3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-
5 通信・情報設備														3.0	2.0	0.20	-	-	-	-	-

3 対応性・更新性				0.2	3.6	0.29	-	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり				0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		階高:3.9m以上	-	5.0	0.60	-	-	-	
2	空間の形状・自由さ		壁長さ比率:0.14	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.3	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②	天井吊配管としている	-	5.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	-	4.7
1 生物環境の保全と創出		独自③	評価する取り組みの表の合計が11ポイント	-	4.0	0.30	-	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	評価する取り組みの表の合計が5ポイント	-	5.0	0.40	-	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	5.0	0.30	-	-	-	5.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	評価する取り組みの表の合計が5ポイント	-	5.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			評価する取り組みの表の合計が17ポイント	-	5.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	-	4.0
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI <sub>m</sub> =0.89	3.0	4.1	0.30	-	-	-	4.1
2 自然エネルギー利用			ペリメーターゾーンに自然換気システムを採用している	3.0	5.0	0.20	-	-	-	5.0
3 設備システムの高効率化			BEI <sub>m</sub> =0.69	3.0	4.1	0.30	-	-	-	4.1
4 効率的運用				0.2	4.0	0.20	-	-	-	4.0
集合住宅以外の評価				1.0	4.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング		太陽光・照明設備についてモニタリングが可能	3.0	4.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制		運用管理の具体的な実施方針が計画されている	3.0	4.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	3.9
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			節水便器・自動水栓の採用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.9	0.63	-	-	-	3.9
2.1 材料使用量の削減			BCP325、BCP材、ノンスカラップ工法の採用	-	4.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	断熱材(スラブ下)・ボード(壁材)・再生クラッシュラン(外部碎石)	3.0	5.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	3.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	GL工法の採用	3.0	5.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	4.3	0.22	-	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			SDSシートにて有害物質を含まないことを確認	3.0	5.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	4.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		ODP=0、GWP=1の断熱材を採用している	-	5.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	-	3.8
1 地球温暖化への配慮		①	LCCO2:73%	-	4.0	0.33	-	-	-	4.0
2 地域環境への配慮				0.3	4.1	0.33	-	-	-	4.1
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を採用していない	-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			評価する取り組みの表の合計が13ポイント	-	4.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.5	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	評価する取り組みの表の合計が4ポイント	-	5.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.3	0.33	-	-	-	3.3
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自		-	-	-	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制			-	3.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	4.7	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		評価する取り組みの表の合計が4ポイント(広告物照明無し)	-	5.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		LOW-Eガラスの採用	-	4.0	0.30	-	-	-	

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

日本特殊陶業株式会社(仮称)小牧事務棟

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)\_AICHI

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>			<b>4.0</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.0	0.10
<b>② 資源の有効活用</b>			<b>3.7</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.7	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.9	0.19
<b>③ 敷地内の緑化</b>			<b>4.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	4.0	0.09
<b>④ 地域材の活用</b>			<b>4.0</b>
		(評価ポイント)	
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	2.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	1.0	-

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

外構緑化:110.9%/建物緑化:1.6%

愛知県の産業として確立されている「セラミック」を使用

タブノキ(小牧市の木)ツツジ(小牧市の花)

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 日本特殊陶業株式会社(仮)

計画上の配慮事項	
総合	LOW-Eガラスを採用することで、省エネルギー性に配慮し、冷暖房負荷を軽減し、環境負荷を低く抑えられる建物となるように配慮した。また、坪庭を計画し、積極的な屋光利用を図った。
Q1 室内環境	事務室は、落ち着いた室内環境となるように吸音材を積極的に設けたほか、広く設けた開口部から、自然光を積極的に取り込む計画とした。
Q2 サービス性能	配管部材及び空調換気ダクトについては、耐用年数の長いものを採用したほか、長期に建物を使用するにあたり維持管理が容易な部材選定及び室の配置計画を行った。
Q3 室外環境(敷地内)	植栽は、敷地内に可能な限り計画し、屋根の一部には屋上緑化を設けた。また、室外機からの排熱に考慮し、室外機は屋上に設ける配置計画とした。
LR1 エネルギー	太陽光パネルを設け、自然エネルギーの積極的利用を図った。また、建物内設備にはLED照明等高効率設備を採用することで、建物から発生するエネルギー量の低減に努めた。
LR2 資源・マテリアル	建築部材は特定調達品目及びエコマーク商品を積極的に採用し、節水にも配慮した設備を取り入れることで、環境負荷の低減を図った。
LR3 敷地外環境	建設に伴って発生するCO2の発生量を低く抑えることで、地球温暖化に配慮した。
その他	特に無し